



小田原城天守閣 <sup>しやちほこ</sup>鯨 設置の様子

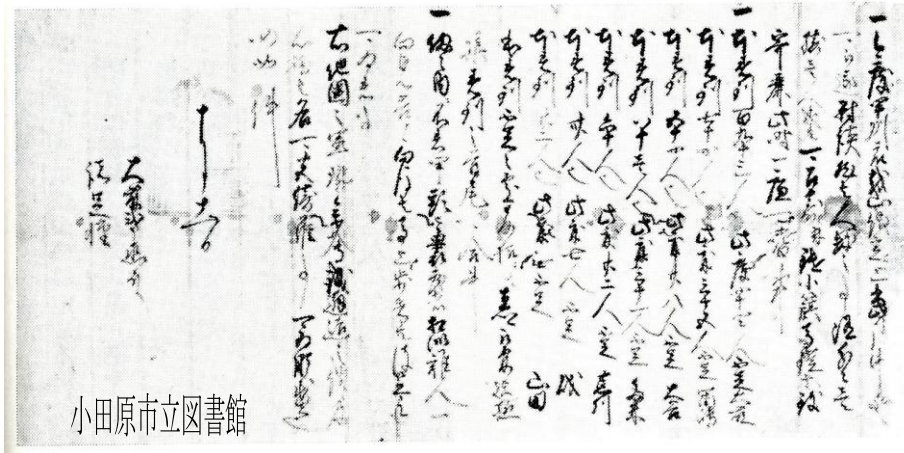
小田原城天守閣は今年で復興五十周年を迎えました。いま、皆さんが目にしてている小田原城天守閣は昭和35年(1960)に再建されたものです。

明治時代に廃城となった折に、天守閣は解体され、鯨もドイツ人に売却されたと伝えられています。その上関東大震災により石垣が崩れてしまうなど、江戸時代の小田原城をしのぶものは少なくなっていました。

しかし、昭和25年(1950)には小田原城址が「こども文化博覧会」の会場となり、震災で崩れた石垣の修復が行われました。

天守閣石垣の完成によって、市民の天守閣復興への機運が高まり、小田原市が天守閣の復興に乗り出しました。天守閣は東京大学、大久保神社に残されていた模型を元に設計が行われました。一方鯨は絵図面を元に復元が行われ、青銅製のものが作られました。

こうして昭和35年(1960)、市政施行20周年に合わせて、小田原のシンボル、観光施設としての小田原城天守閣が完成し、現在に至っています。



(永禄4年)十月十一日付北条家虎朱印状

この古文書は北条氏の当主が家臣であった大藤秀信という人物に宛てた命令書です。内容は武田氏の軍勢がやってきて対談を行うので、不足している兵隊の数をそろえることと、軍装を整えることが命令されています。

武田氏と対談を行うというところから、この古文書は永禄4年(1561)に越後の長尾景虎(後の上杉謙信)が小田原まで攻めてきた時期に作成されたと考えられます。

命令の中で鎧、旗、馬鎧をきれいなものにするように、兜をかぶっていない者は皮笠をかぶるようにという指示がなされています。北条氏は戦国大名の中でもとりわけ軍隊の装いには気を配っていました。この古文書の他にも武装について細かに定め、軍装をきらびやかにするようという命令を下したりしております。

とりわけ、この古文書からは北条氏が実際に家臣とやり取りを行い、軍団の人数を一人単位で把握しようとしていたことが読み取れます。しかし、実際に大藤氏が兵士の数をそろえることができたかは分かりません。

この古文書は『小田原市史史料編 中世Ⅱ 小田原北条Ⅰ』(504号文書)に収録されております。

小田原市立図書館地域資料室 利用案内

小田原市立図書館(星崎記念館)2F

年中無休(月一回の特別整理日、年末年始は除く)

資料の出納・ご相談は9時~12時、13時~16時45分に承ります

室内の資料は貸し出しできません

## 編集後記

本紙は小田原市立図書館地域資料室の紹介を行う発行物です。今後も地域資料室に所蔵されている資料の紹介などを行ってまいります。

地域資料室前廊下でも所蔵古写真の展示を行っております。お立ち寄りの際はぜひご覧下さい。

小田原市立図書館 地域資料室通信 第1号

編集/発行 小田原市立図書館  
地域資料室

〒250-0014 小田原市城内7-17  
TEL 0465-24-1055